

2024 年卒
Vol. 3

1 月 1 日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 1 月発行)

年が明け、就職活動本番が近づいてきた。就活解禁を 2 カ月後に控えた 1 月 1 日時点で、2024 年卒学生の準備はどの程度進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 現在の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」35.2%。前年同期調査(34.1%)をやや上回る
- 志望業界 1 位「インターネットサービス」、2 位「情報処理・ソフトウェア」。IT 人気続く

2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 文系・理系とも 1 位は「給与・待遇が良い」、2 位「将来性がある」
- 仕事を通して成長できることが「企業選びに影響する」9 割超
- 成長できる条件は「よき手本となる上司や、よきライバルとなる同僚がいる企業」が最多

3. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多(93.6%)。「各企業のホームページ(採用サイト)」が続く
- 就活での SNS 利用が広がり、過半数が LINE の企業採用アカウントに登録(54.8%)

4. インターンシップ等(※)の参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験がある学生は 9 割超(92.1%)。「今後も参加したい」が約 8 割(78.1%)
- 参加企業からの「限定セミナーの案内」「早期選考の案内」が目立つ

5. 1 月 1 日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」51.1%。前年同期(49.2%)よりさらに上昇し、半数超に
- 「内定を得た」14.9%。前年同期(13.5%)より 1.4 ポイント上昇

6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」63.0%、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」51.1%の順

7. 志望企業との対面での接点

- 第一志望企業との対面経験がある学生は 5 割強(54.7%)。前年(42.5%)より大きく増加
- 本選考の前に、対面での接点が必要と考える学生は 8 割超(83.1%)

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1 日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生(理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 1,028 人(文系男子 288 人、文系女子 327 人、理系男子 279 人、理系女子 134 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023 年 1 月 1 日~6 日
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

1. 現在の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が35.2%で、前年同期調査(34.1%)を上回った。「なんとなく決まっている」も前年より割合が増加しており(40.4%→42.4%)、志望業界確定のタイミングが早まっている様子が見て取れる。一方で、「決まっていない」とする回答が、11月後半に実施した前回調査(21.8%)よりもやや増加した。インターンシップなどで企業と接点をもつ中で、志望業界を見直す学生もいるのだろう。

「なんとなく決まっている」との回答も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた(40業界から5つまで選択)。最も多いのは「情報・インターネットサービス」(19.2%)で、2位は「情報処理・ソフトウェア」(18.4%)と、前年に引き続きIT業界に人気が集まっている。特に「情報・インターネットサービス」は、文理男女のすべての属性で5位以内に入り、属性を問わず多くの学生が志望している。文系男子の1位は「銀行」で、文系女子は「マスコミ」。理系学生は製造業が上位に多く、理系男子は「電子・電機」が最も多く、理系女子は「医薬品・医療関連・化粧品」「水産・食品」が同率で1位。

<志望業界の決定状況>

	全体	(11月調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	35.2	31.5	34.1	34.0	24.8	46.2	40.3
なんとなく決まっている	42.4	46.6	40.4	43.1	48.6	37.6	35.8
決まっていない	22.4	21.8	25.5	22.9	26.6	16.1	23.9

<志望業界(上位15業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報・インターネットサービス ① 19.2	銀行 22.1	マスコミ 26.3	電子・電機 25.6	医薬品・医療関連・化粧品 25.5
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ② 18.4	情報・インターネットサービス 21.6	官公庁・団体 16.7	情報・インターネットサービス 21.4	水産・食品 23.5
3	素材・化学 ⑤ 14.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.6	情報・インターネットサービス 16.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.4	素材・化学 22.5
4	水産・食品 ⑤ 13.5	商社(総合) 18.5	商社(総合) 15.4	素材・化学 21.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.7
	マスコミ ⑩ 13.5	調査・コンサルタント 17.1	銀行 15.0	自動車・輸送用機器 18.8	情報・インターネットサービス 15.7
6	建設・住宅・不動産 ⑦ 13.3	官公庁・団体 15.8	商社(専門) 14.2	建設・住宅・不動産 17.5	建設・住宅・不動産 14.7
7	調査・コンサルタント ④ 13.2	運輸・倉庫 15.3	水産・食品 13.8	機械・プラントエンジニアリング 17.5	電子・電機 13.7
8	銀行 ③ 12.9	マスコミ 14.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.3	精密機器・医療用機器 15.0	精密機器・医療用機器 12.7
9	電子・電機 ⑧ 12.8	エネルギー 12.6	建設・住宅・不動産 12.1	水産・食品 14.5	官公庁・団体 10.8
10	官公庁・団体 ⑫ 12.0	商社(専門) 12.6	調査・コンサルタント 10.8	エネルギー 14.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 10.8
11	エネルギー ⑧ 11.4	証券・投信・投資顧問 10.4	ホテル・旅行 10.4	調査・コンサルタント 13.2	調査・コンサルタント 9.8
	商社(総合) ⑬ 11.4	建設・住宅・不動産 9.5	素材・化学 9.6	医薬品・医療関連・化粧品 12.4	エネルギー 7.8
13	自動車・輸送用機器 ⑮ 10.0	自動車・輸送用機器 9.5	通信関連 9.2	運輸・倉庫 9.4	自動車・輸送用機器 7.8
14	医薬品・医療関連・化粧品 ⑩ 9.9	通信関連 9.5	保険 9.2	通信関連 8.5	商社(専門) 6.9
	運輸・倉庫 ⑭ 9.9	保険 9.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.2	農業・林業・鉱業 8.5	その他サービス 6.9

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

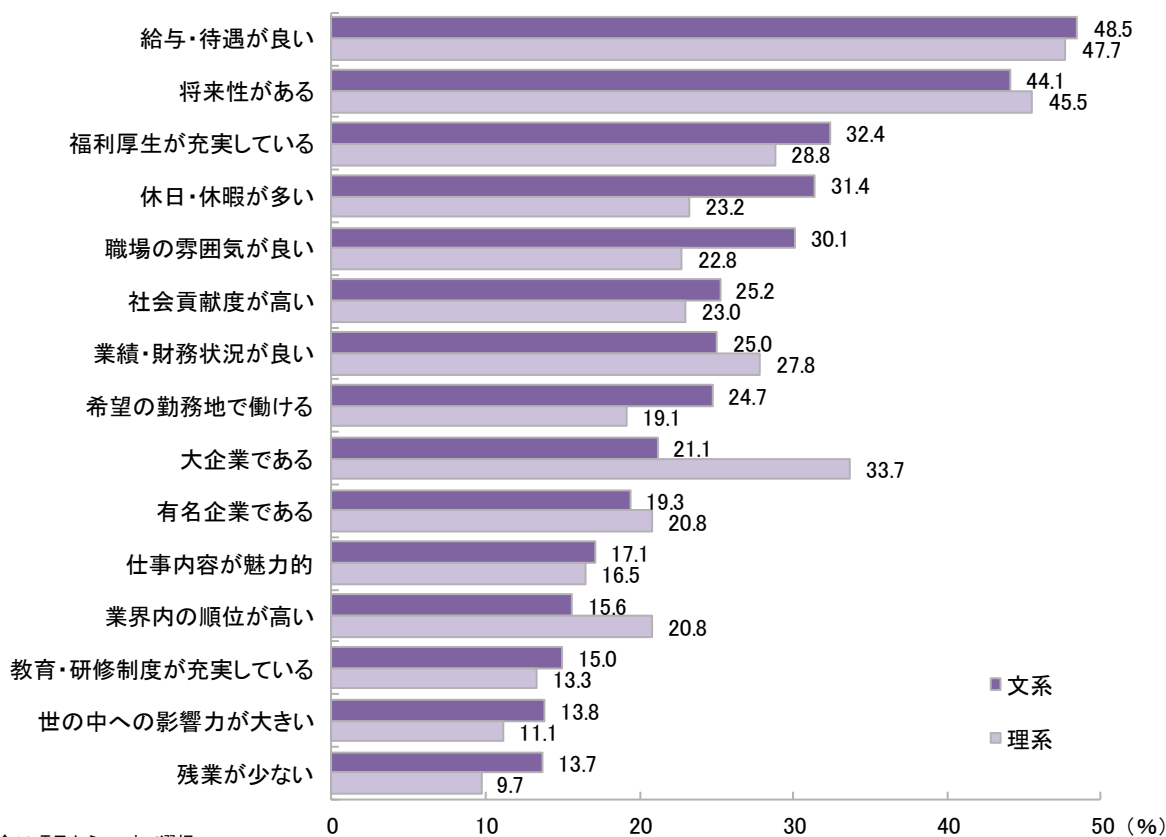
2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらい、文系・理系でどのような違いがあるのかを比較した。

上位 2 項目は文理で変わらず、1 位「給与・待遇が良い」、2 位「将来性がある」の順。いずれも 4 割を超えポイントが集中している。文理を問わず多くの学生が重視している様子が見て取れる。

文系の 3 位は「福利厚生が充実している」で、以下「休日・休暇が多い」「職場の雰囲気が良い」と続く。働きやすさに重点を置いて企業選びをしようと考えているようだ。これに対し、理系の 3 位は「大企業である」で、文系のポイントを大きく上回る（文系 21.1%、理系 33.7%）。また、「業界内の順位が高い」も文系を上回っており、大手志向が目立つ。

＜就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15項目)＞



※全30項目から5つまで選択

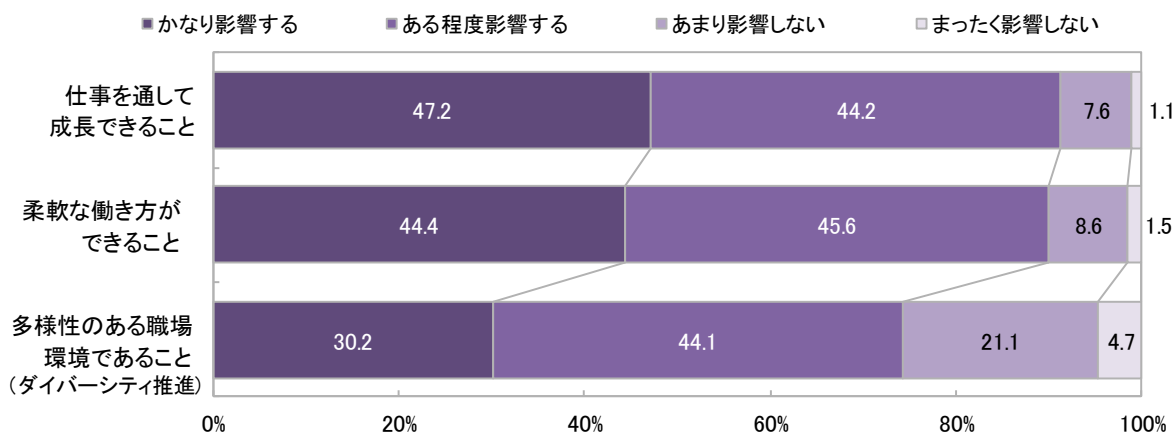
■企業を選ぶ際に重視したい点

- 業界内で影響力が高く、働きやすい環境であることを重視している。 <文系男子>
- 教育がしっかりしている会社は、入社する際の気持ちのハードルが低くなりますし、嫌なプレッシャーも感じないと思います。 <文系女子>
- 高い品質の製品を世に送り出している企業を選択すれば、高いスキルを持つ社員と共に働くことができる。財務状況に余裕のある企業は設備投資や新規事業などへの参入に積極的であると考える。 <理系男子>
- 技術が身に着いた人から転職してしまうような会社ではなく、優秀な社員がそのまま働き続けたいと考えるような会社。 <文系男子>
- 将来性がないと転職も視野にいれてキャリアを積んでいかなければならないため、重要視します。 <理系女子>

次に、就職先企業選びに、下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「仕事を通して成長できること」は、半数近い学生が「かなり影響する」と回答 (47.2%)。「ある程度影響する」を合わせて 9 割超 (計 91.4%) が「影響する」との考えを示した。「柔軟な働き方ができること」も、「かなり影響する」「ある程度影響する」の合計が 9 割に達する (計 90.0%)。

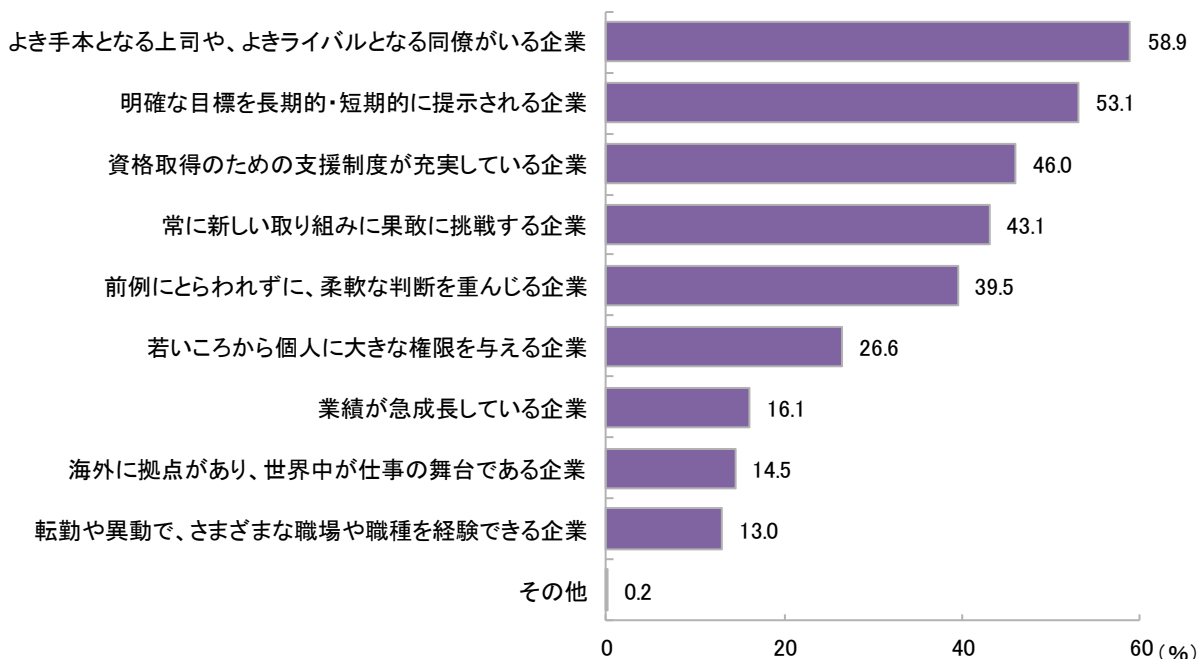
「多様性のある職場環境であること」は、3 項目の中では一番ポイントが低いものの、「影響する」と回答した学生は 7 割に上り (計 74.3%)、いずれの項目も企業を選ぶ上で重要な指標と捉えられていることがわかる。

＜就職先企業選びへの影響度合い＞



どのような企業なら、自分が成長できそうだと考えているのかを重ねて尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多いのは「よき手本となる上司や、よきライバルとなる同僚がいる企業」で、6 割近くが選んだ (58.9%)。続く「明確な目標を長期的・短期的に提示される企業」も半数を超えている (53.1%)。企業研究を通じて学生が成長イメージをもてるよう情報提供していくことが求められる。

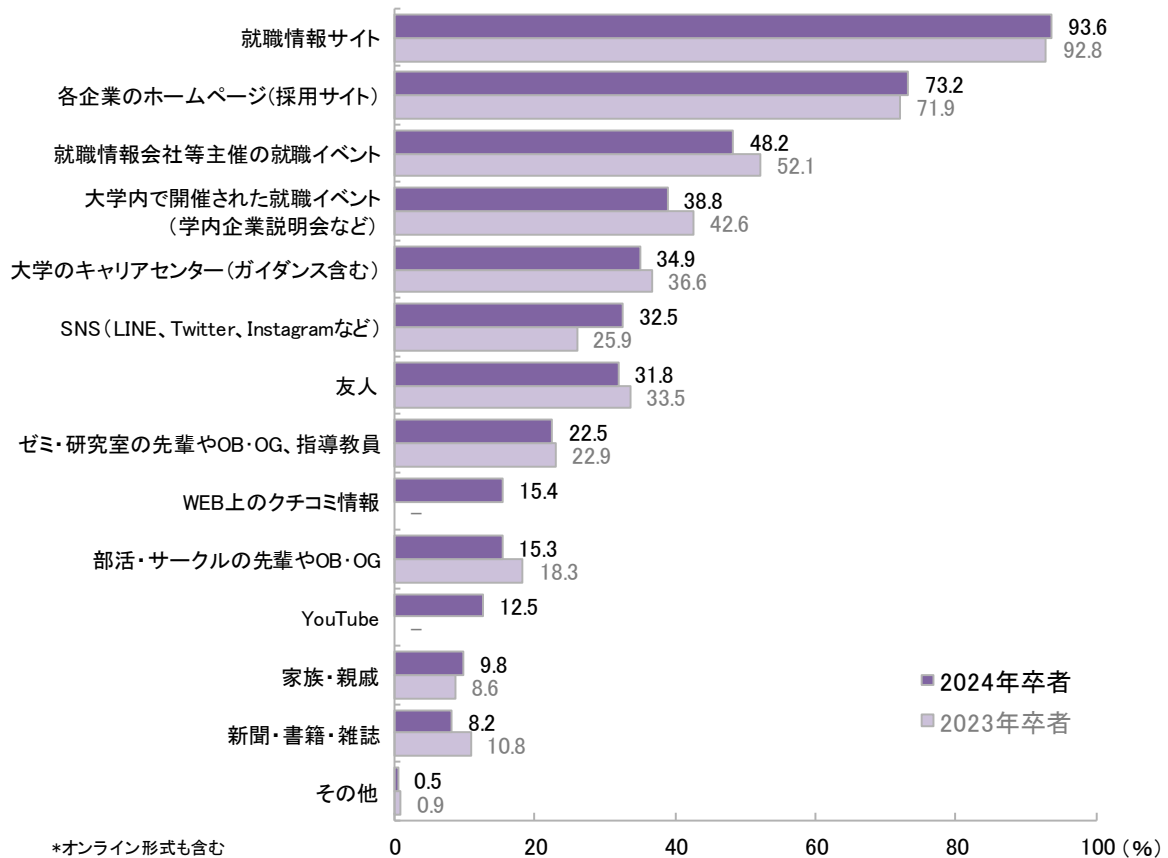
＜自分が成長できそうだと思う企業＞



3. 就職活動に関する情報の入手先

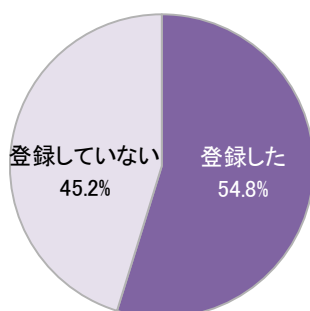
就職活動に関する情報の入手先で最も多いのは「就職情報サイト」で、9割を超えている(93.6%)。次いで「各企業のホームページ(採用サイト)」(73.2%)が続く。前年よりポイントを下げている項目が多い中で、「SNS」が増えているのが目立つ(25.9%→32.5%)。僅差ながら「友人」(31.8%)を上回る。新型コロナ第1波と大学入学時期が重なった24年卒学生は、友人関係が希薄と指摘されることが多いが、その分SNSを活用して情報収集を図る学生が多いのだろう。

<就職活動に関する情報の入手先>

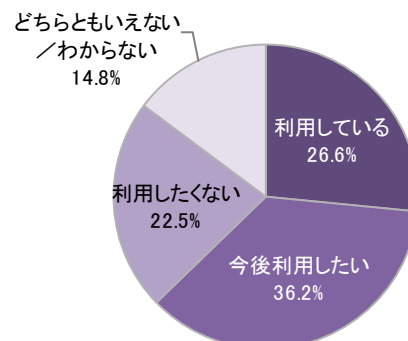


就職活動での利用が進むLINEについて尋ねた。個別企業の採用アカウントに登録している学生は半数を超える(54.8%)。LINE上での企業のインターンシップやセミナー等の予約については、「利用している」(26.6%)、「今後利用したい」(36.2%)を合わせて6割強が、利用に肯定的(計62.8%)。

<LINEでの企業の採用アカウントの登録>



<LINEでの予約意向>



※インターンシップやセミナーの予約について回答

4. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップ等のプログラムへの参加経験を尋ね、3カ年分のデータを比較した。

調査時点で参加経験がある学生は 9 割超 (92.1%)。プログラムの実施日数別に参加状況を見ると、最も多いのは「1 日以内」で約 9 割に上り (89.1%)、ほとんどの学生が参加経験を持つ。「5 日間以上」は約 3 割にとどまる (29.0%)。ただし、いずれの期間も、参加経験を持つ学生の割合は前年同期を上回っている。

参加社数が最も多いのも「1 日以内」のプログラムで、平均 7.9 社。前年より 0.7 社減少。「2~4 日間」もやや減少した (平均 3.3 社→3.0 社)。コロナ禍をきっかけにオンラインでの実施が主流となる中で、比較的短期間で実施されるプログラムの参加機会が増えたが、今年度は対面で実施する企業が増加したことで、短期プログラムへの参加社数が減少したと考えられる。

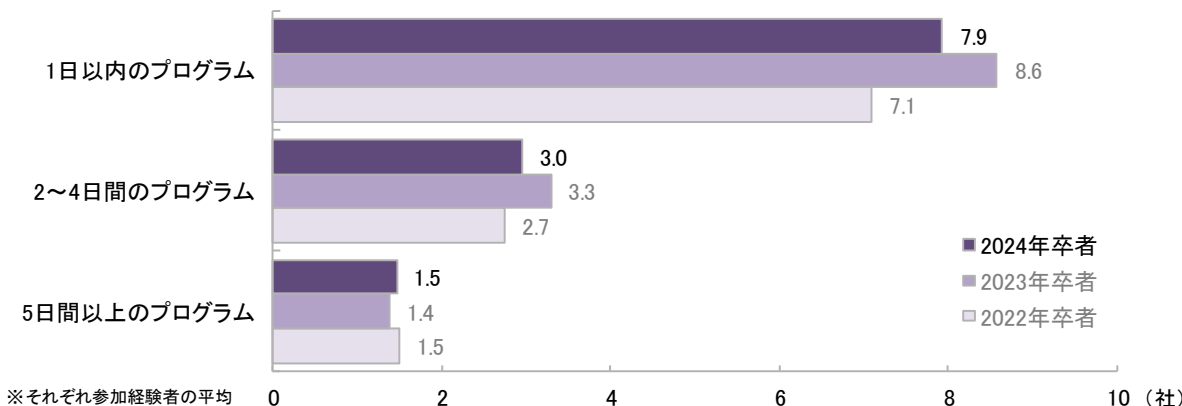
今後については、約 8 割が「参加したい」と回答 (78.1%)。参加したいと考えている企業数は平均 7.5 社。すでに多くのプログラムに参加しているものの、今後の参加にも意欲的な学生が多い。

<プログラム日数別参加状況>

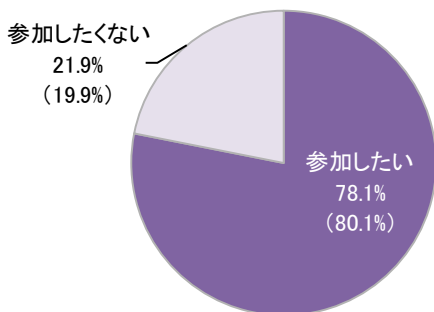
	全体	(2023年卒者)	(2022年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラムに参加	89.1	84.1	83.7	87.8	93.6	86.0	87.3
2~4日間のプログラムに参加	59.5	55.7	52.8	60.1	61.8	60.9	50.0
5日間以上のプログラムに参加	29.0	23.3	23.2	19.8	26.3	38.0	36.6

※それぞれの参加者が分母

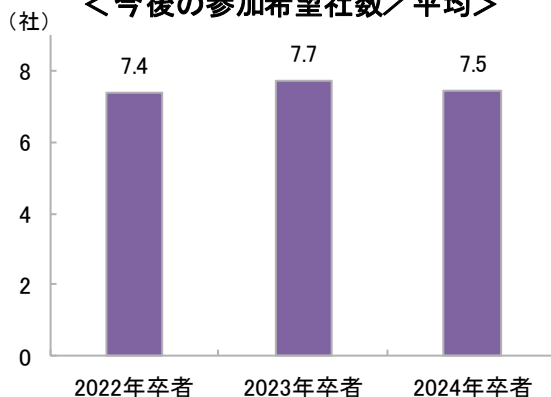
<プログラム日数別参加社数>



<今後の参加意向>



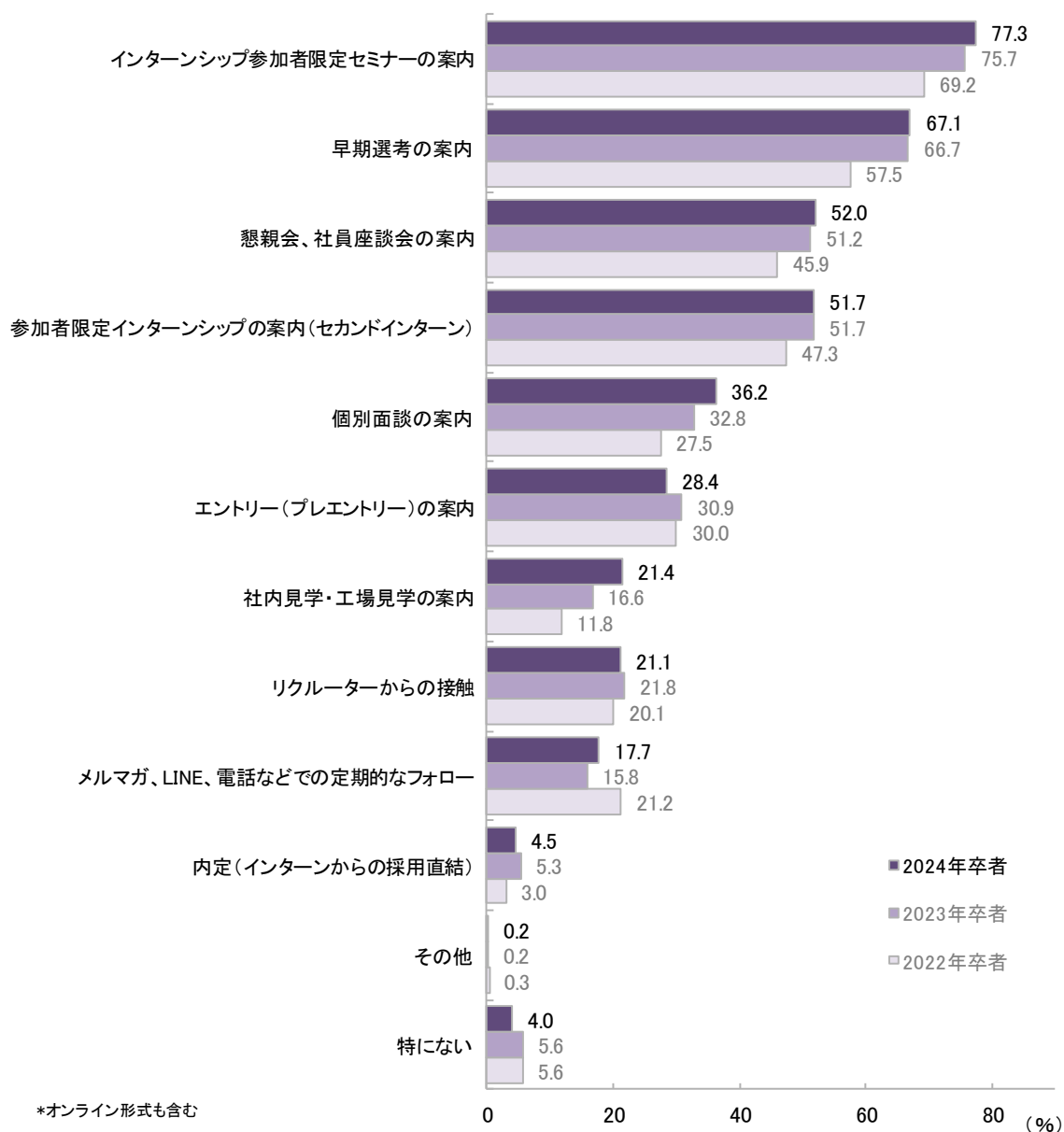
<今後の参加希望社数/平均>



インターンシップ等への参加経験がある学生 (全体の 92.1%) のうち、参加後に企業からアプローチを受けた学生は 9 割強に上る (96.0%)。ほとんどの学生が企業から何らかのアプローチを受けており、プログラム参加後のフォローやアプローチは一般化していると言える。

どのようなアプローチを受けたかを尋ねると、最も多いのは「インターンシップ参加者限定セミナーの案内」で、8 割弱 (77.3%)。次いで、「早期選考の案内」が 67.1%。いずれも、一昨年から昨年にかけて大きく増加したが、今年さらに増加した。3 位以下の項目も前年よりポイントが上昇しているものが多く、企業が参加学生へのアプローチを強化していることがうかがえる。

＜インターンシップ等の参加後に企業から受けたアプローチ＞



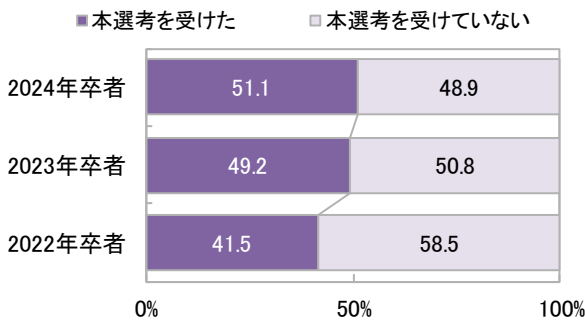
5. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が51.1%で、回答者の過半数を占めた。この数字は年々上昇しているが、1月調査で半数を超えるのは初めて。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は2.8社。本選考受験企業の中にインターンシップ等参加企業があると答えた学生は8割を超え（82.1%）、インターンシップ等から早期選考へとつながるケースが多いことがこのデータからもわかる。

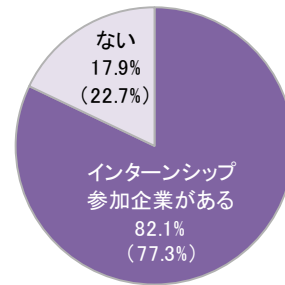
内定状況については、「内定を得た」との回答が14.9%。内定取得者の8割超（84.3%）が、インターンシップ等参加企業から内定を得たと回答した。

なお、文理男女の属性による大きな差は見られない。

＜1月1日現在の本選考の受験有無＞



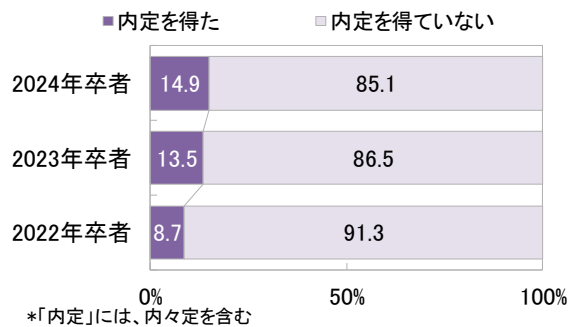
＜うち、インターンシップ等参加企業の有無＞



※()内は前年同期調査の数値

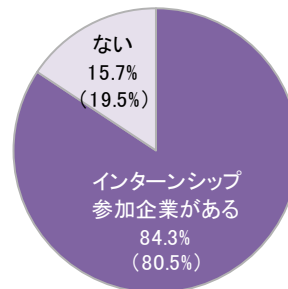
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	51.1%	49.2%	52.1%	52.9%	47.7%	51.5%
本選考を受けていない	48.9%	50.8%	47.9%	47.1%	52.3%	48.5%
選考受験社数(平均)	2.8社	3.2社	3.1社	3.1社	2.3社	2.7社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.7社	1.7社	1.8社	2.0社	1.4社	1.6社

＜1月1日現在の内定の有無＞



*「内定」には、内々定を含む

＜うち、インターンシップ等参加企業の有無＞



※()内は前年同期調査の数値

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	14.9%	13.5%	17.0%	15.9%	10.0%	17.9%
内定を得ていない	85.1%	86.5%	83.0%	84.1%	90.0%	82.1%
内定社数(平均)	1.4社	1.4社	1.6社	1.3社	1.3社	1.4社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.1社	1.0社	1.1社	1.0社	1.1社	1.0社

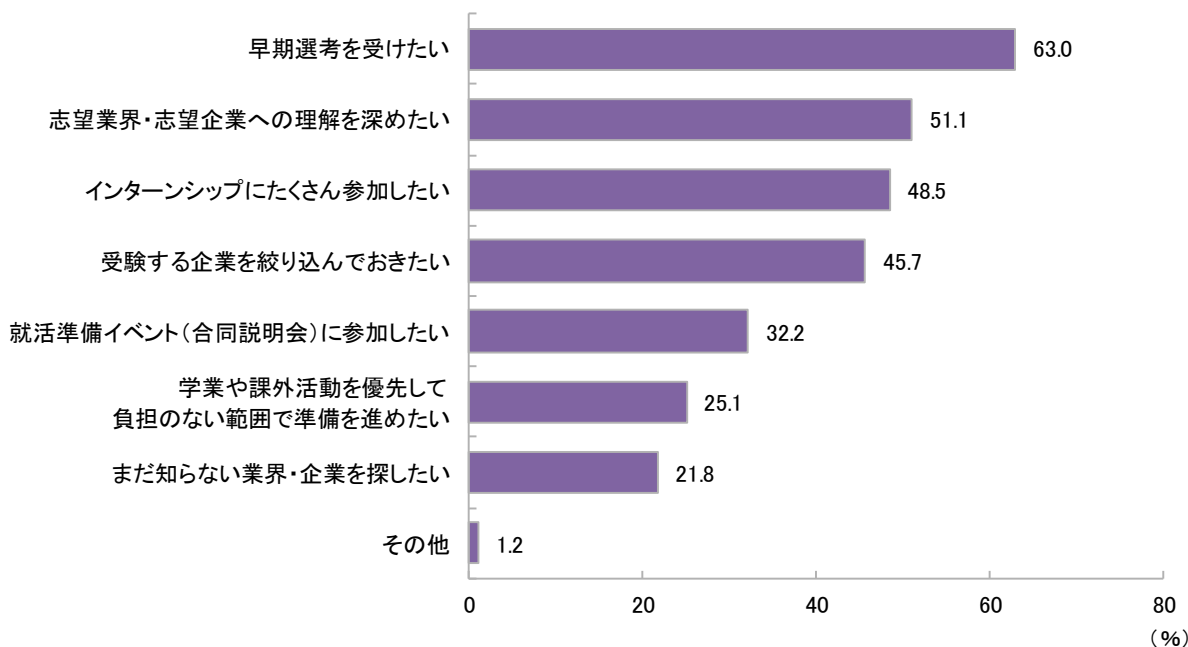
6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。最も多いのは「早期選考を受けたい」で、6割を超える学生が選択した(63.0%)。調査時点で就活解禁まで約2カ月あるが、本選考を経験しておきたいと考える学生が多いことがわかる。

次いで、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」(51.1%)が約半数で続き、「インターンシップにたくさん参加したい」(48.5%)、「受験する企業を絞り込んでおきたい」(45.7%)までが4割を超える。

意中の企業の内定獲得に向け準備に取り組む一方で、「就活準備イベント(合同説明会)に参加したい」(32.2%)、「まだ知らない業界・企業を探したい」(21.8%)など、就職活動が本格化する前にもっと多くの企業に出会いたいと考える学生も一定数見られる。

＜3月の就職活動解禁までの準備の進め方＞



■就活解禁までの進め方・方針

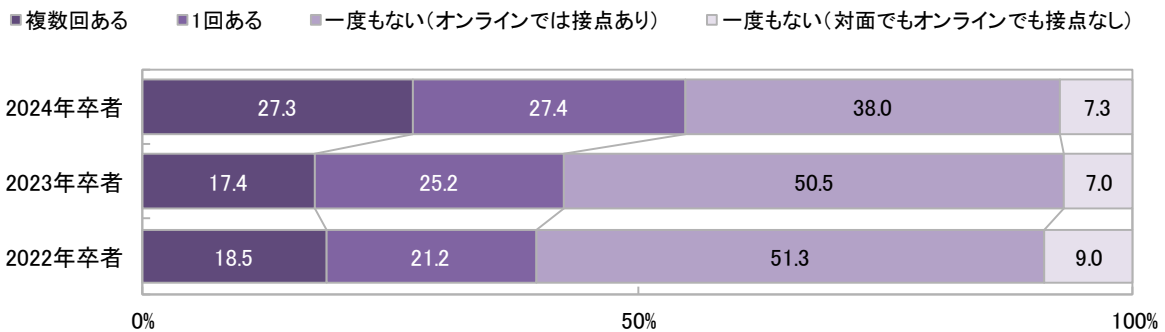
- 面接に早くから慣れ、内定をもらえる準備をしていきたい。 <文系男子>
- 1つでも内定をとり、安心した状態で志望企業の選考を受けたい。 <文系女子>
- 業界を広げすぎると迷ってしまいそうなので、いま目をつけている業界の中で企業ごとの違いを明確にしていきたい。 <文系女子>
- 面接などに進んだ際にきちんと受け答えできるよう、企業理解と自己分析を深めたい。 <理系女子>
- 基本的には絞り込む作業を進めていきたいが、新たに良い企業が見つかったらエントリーしたい。 <理系男子>
- 興味はあるが、まだ参加できていない企業のインターンシップがあるので、参加したいと思う。 <理系女子>
- まだまだ知らない業界や企業が多いため、就活準備イベントやインターンシップに参加してもっと視野を広げていきたい。 <文系男子>
- まだ志望業界を決めきれていないので、就職活動解禁まで広く見ていたい。 <文系女子>
- 既に入ってもいいと思う会社の内定を持っているので、その会社より行きたい企業のみ絞って就活すれば十分だと考えている。 <文系女子>
- 期末試験があるので2月初めまではそちらを優先したい。 <文系男子>

7. 志望企業との対面での接点

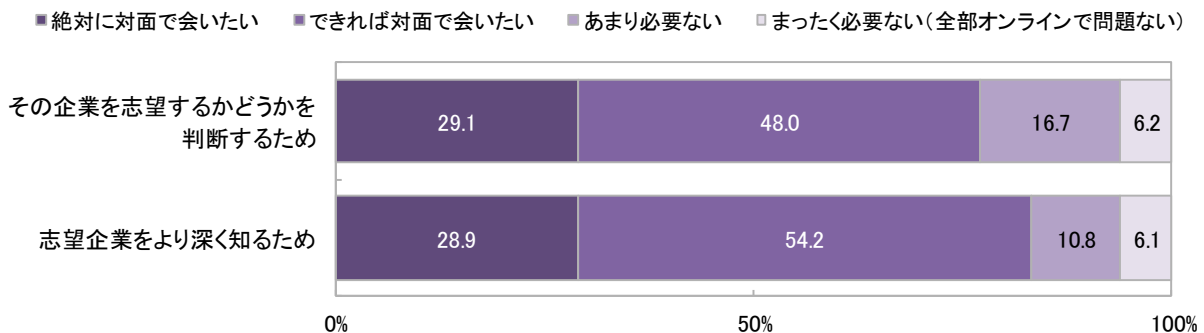
インターンシップやイベントなどで、現時点での第一志望企業と対面で接触した経験がある学生は、5割強 (計54.7%)。前年同期調査 (計42.6%) より10ポイント以上増加した。特に「複数回ある」の伸びが目立つ (17.4%→27.3%)。行動制限の緩和を受け、企業が対面の機会を増やしていることがうかがえる。

本選考が始まるまでに対面での接点が必要かどうかを、2つの目的に分けて尋ねた。「その企業を志望するかどうかを判断するため」では、「絶対に対面で会いたい」(29.1%)、「できれば対面で会いたい」(48.0%)を合わせて8割近くが、対面での接点が必要と回答 (計77.1%)。「志望企業をより深く知るため」ではより高く、8割を超える (計83.1%)。企業理解を深めるためにも、選考が始まる前に直接会う機会を求める学生が多いようだ。

<第一志望企業との対面での接触経験>



<本選考前までの対面接点の必要性>



■就職活動に関して思うこと

- オンラインと対面型のインターンシップの両方に参加しましたが、対面型では得られる情報がとても多いと感じました。対面のイベントがあれば積極的に参加したいと考えています。 <理系女子>
- 対面とオンラインを上手く使い分けて、効率よく就職活動を進めていければいいと思う。 <文系女子>
- 志望業界などが定まっていないため、どのようにやる気を出して、どうモチベーションを維持していくのが難しい。 <文系男子>
- 周りに内定を持っている人が多すぎて焦っている。 <文系男子>
- 企業の選考スケジュールが過密すぎる上に発表が遅いため、就職活動以外のスケジュールが立てにくい。もう少し選考スケジュールを早めに公表してほしい。 <文系女子>
- 大学院生なので、早期化する就活との両立はたいへんですが、なんとか納得内定をいただいて、その後は研究活動に集中したい。 <理系男子>